臨床研修医活動日記 2026年10月

10月6日（火） 釧路児童相談所子ども支援課の南部課長をお招きし、「児童虐待」をテーマとした総合講義が行われました。講義には、釧路赤十字病院の医療ソーシャルワーカーや市立釧路総合病院の保育士など、多職種の方々も参加されました。
講義では、「しつけ」と「虐待」の違いについて学びました。しつけは子どもの気持ちを受け止めながら成長を促す双方向の関わりである一方、虐待は保護者が子どもの感情を無視し、一方的にコントロールする関わりであるとの説明が特に印象に残りました。

10月20日（火） 薬剤部の大月部長による「薬事情勢」をテーマとした総合講義が行われました。
講義では、医薬品供給不安への対応、医薬品副作用被害救済制度、OTC類似薬の保険給付見直しなどについて学びました。地域では医薬品の欠品が深刻化しており、早期の処方入力や代替薬への柔軟な対応が重要であることを理解しました。
また、副作用被害救済制度の概要や医療従事者の役割、今後導入予定のOTC類似薬選定療養制度についても理解を深めることができました。今回の講義を通じて、患者さんに適切な説明ができる医師を目指したいと感じました。

10月24日（土） 1年次研修医3名が、必須プログラムである「緩和ケア研修会」に参加しました。
研修会では、緩和ケアに関する知識を深めるとともに、緩和ケアを受ける患者さんの立場や思いへの理解を深めることができました。今回の研修を通じて、患者さんに寄り添った医療を提供するためには高い専門性と責任感が必要であることを改めて認識しました。今後もプロ意識を持ち、診療に取り組んでいきたいと思います。

虐待セミナー





総合講座「薬事情勢」







緩和ケア研修会





